

効果的投薬「寛解」保つ

の状態を長く保っているの
でしょう」。主治医で札幌
医大消化器内科教授の仲瀬
裕志さんは、解説する。

鈴木さんは、現在も2か
月に1回、片道1時間かけ
て通院し、生物学的製剤の
点滴を受ける。日常生活に
大きな制限はなく、時折、
お酒も楽しむ。

札幌医大病院に通うクロ
ーン病患者の半数以上は、
生物学的製剤などで寛解を
長く維持しているという。

発症後すぐに使い始めるこ
とで、安定するケースが多
い。最近では、生物学的製剤
の種類も増え、アレルギー
が出たり効かなくなったり
しても、薬を替えて治療が
続けられるようになった。

難病という点、日常生活
に支障が大きくなり、働くこ
とが難しいと思われるが、
だが、仲瀬さんは「IBD
は難病とはいえ、治療の進
歩で症状がコントロールで
きるようになってきた。社
会で活躍している人が増え
ていることを知ってほし
い」と話す。

続いた。その後、炎症を抑

える薬を飲み始め、退院し
たが、直後に40度を超える
熱が出て再入院。薬が体に
合わず、肺炎を起こした。
炎症の原因物質を抑える生

物学的製剤の点滴治療に切
り替え、ようやく通常の学
生生活に戻った。

友人たちは、就職活動の
準備を進めていた。体力も
落ち、難病を抱えた自分は
民間企業でやっていけないだ
ろうか。悩んだ末、祖父
の代から続く実家の造園
業を手伝うことにした。

それから約15年。今は、
社長として6人の従業員を
率いて、土木工事なども請
け負う。早朝から現場に出
て、夕方には事務所に戻っ
て深夜まで図面を描く。冬
には夜も、重機を使って除
雪などの作業をする。

「発症後すぐに治療し、
病気の勢いを抑え込めたの
で、ほぼ無症状の『寛解』

がいいです」と笑う。

病気がわかったのは大学
3年の時だ。授業中に座っ
ていられないほど、お尻に
強い違和感を感じた。札幌
市の肛門科を受診すると、
痔瘻と診断されたものの、

札幌医大病院を紹介され
た。内視鏡検査の結果、ク
ローン病だと判明した。痔
瘻を機にクローン病が見つ
かる例は少なくない。

炎症がひどかったので、
すぐに入院。絶食し、栄養
剤だけを飲む生活が2か月

北海道岩見沢市の鈴木雄
彦さん(37)は10月上旬、夕
張市内の山林でカラマツの
伐採作業をしていた。切り
倒された直径60センチほどの巨
木を、チェーンソーで長さ
50センチほどに切りそろえる。

筋肉質で元気に働く鈴木
さんは、外見からはわから
ないが、難病のクローン病
を抱えている。腹痛や発熱
などの症状が出る炎症性腸
疾患(IBD)の一つだ。

「僕は本当に難病なのか
なと思うくらい、今は体調



伐採したカラマツを通る鈴木さん(北海道夕張市で)